

髑髏庵(どくろあん)



北側の建物全体を髑髏庵といいます。元は内部に安置された髑髏との対面により、俗塵に汚された心を「消滅」し、精神界の俗世を離れる場所であるとされました。来観者の帳簿を付ける場所でもあり、お茶を提供していました。

復活廊(ふっかつろう)



髑髏庵と鬼神窟の棟を結ぶ廊下です。髑髏庵で消滅した精神を、復活廊で再び蘇生し、哲学的な心眼を開き、精神界が俗欲を離れ靈的に化す場所とされています。

鬼神窟(きしんくつ)



南側の建物全体を鬼神窟といいます。人の感覚では分からない神と鬼の居る場所であり、復活廊で既に霊的な存在となった来観者が、靈魂と神霊の世界に入ることを表しています。

接神室(せっしんしつ)



鬼神窟の一階を接神室といいます。来観者が、靈魂（鬼神）の世界にいるとして、天地の神靈に日常的に接しながら過ごす場所です。

霊明閣（れいめいかく）



鬼神窟の二階を霊明閣といいます。特別な客を歓迎する迎賓の部屋として名付けられました。鬼神窟の二階の外壁に「霊明閣」と書かれた扁額は、この二階部分を示したものです。